根室市社会教育計画

2025（令和７）年度～2034（令和16）年度

目 次

1. 策定の趣旨・・・

1. 策定の趣旨

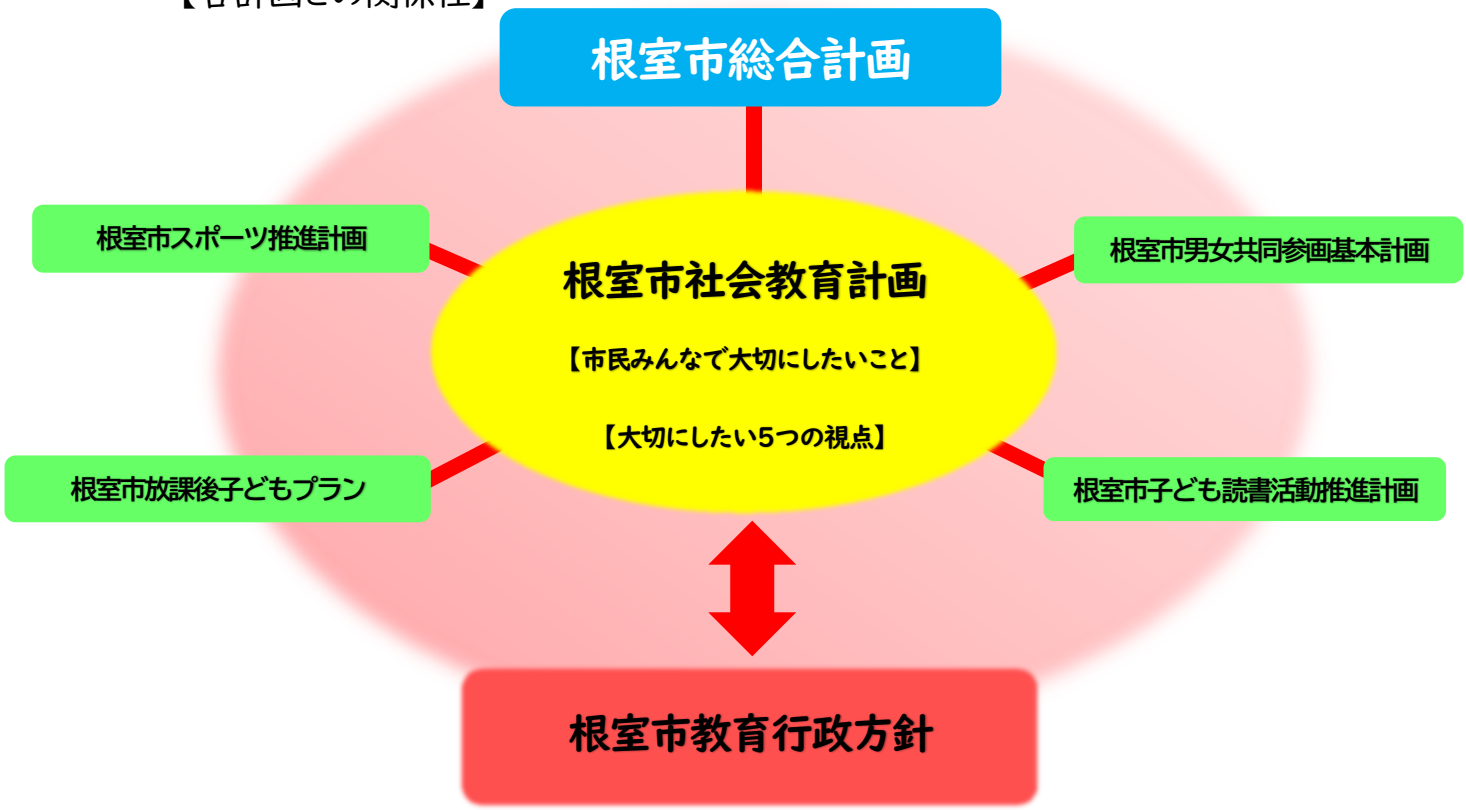
根室市教育委員会では、平成27年に「根室市社会教育計画」（現計画）を策定し、市民と行政が一体となって社会教育活動を推進することを通じて、市民憲章がうたう市民の姿を目指すことを目標として取り組んでまいりました。

このたび、令和6年度に現計画の最終年度を迎え、また第10期となります根室市総合計画が策定されることを受けて、教育委員会では、令和7年度から令和16年度までの10年間を期間とする「根室市社会教育計画」を策定することとしました。

また、スポーツ、子ども読書、男女共同参画、放課後子どもプランの4つの政策については、それぞれの個別計画との整合性を図り推進することとします。

なお、社会教育行政の具体的な取組については、この社会教育計画に基づき、年度毎の教育行政方針に主要施策を位置づける中で着実な推進に努めてまいります。

【各計画との関係性】



2. 根室市の教育環境と社会情勢の変化

根室市は、北海道の東端に位置し、北はオホーツク海、南は太平洋を臨み、水産業を基幹産業とする国内屈指の水産都市であり、加えて北方領土返還要求運動原点の地でもあります。

海と大地に囲まれ、豊かな農林水産資源に支えられ、北海道でも有数の歴史を誇る街であり、ラムサール条約登録湿地である「春国岱・風蓮湖」をはじめ、他ではあまり見ることのできない自然が魅力の街です。

しかしながら、200海里問題等により、水産業を取り巻く情勢は厳しさを増しており、高校卒業後に地域で学べる高等教育機関がないことから、若者が市外へ流出する一方、全国的な少子高齢化の流れと、急速な人口減少の影響により、地域の情勢は縮小を免れない状況にあり、これまでの拡大や成長を基調とした社会観を覆しつつあります。

また、AI技術の急速な進化やグローバル化の進展などにより、人々の価値観や生活はますます多様化していることに加え、社会の中で孤立する問題も顕在化しています。さらに、新型コロナウイルス感染症、温暖化に象徴される気候変動、激甚化する自然災害など、これまでの経験では予測困難な大きな変容の中にあります。

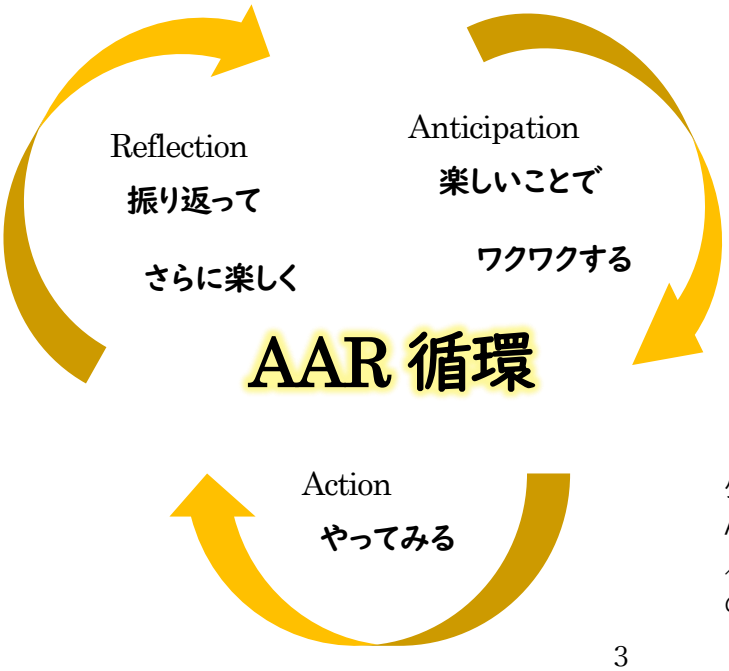
3. 策定の基本的な考え方

根室市社会教育計画策定にあたっては、根室市の教育環境を踏まえ、明確な将来像を描くことは困難を極めることから、従来通りの「10 年後の目標を設定し、達成を目指していく計画」ではなく、時代や環境等の変化に柔軟に対応しつつも、時代を超えて大切にしていきたい基盤を定め、進むべき方向性を示す「羅針盤となる計画」づくりを心掛け、根室市社会教育委員が小中高生との意見交換や研修、ワークショップなど対話を重視しながら審議を進めました。

根室市が抱える課題を真摯に受け止め、互いに協力し合い、学び合いながら、「ふるさと」で豊かに暮らすための「当事者意識」を持って、アクションを起こしていくことが求められています。

そのためには、これまでの目標を設定した計画をたて、評価して前進していく「PDCA」ではなく、おもしろそうなこと、楽しそうなことが起きそうでわくわくするということをまずは実行し、うまくいけばどんどん進め、うまくいかなければやり方を変え、周囲をどんどん巻き込んでいき、新たな動きが次々と生まれていく「AAR」の循環[※1]を地域に広めていくことが重要です。

根室市社会教育計画は、このような教育環境・考え方のもとに、「市民みんなで大切にしたいこと」を3つ掲げ、それを自分事として担うために心掛けたい視点を「根室市の社会教育に大切な5つの視点」として示し、さらにそれを支える「社会教育行政の取組の方向性」をまとめ、策定しました。



※1「AAR の循環」（エーエーアールのじゅんかん）
ある程度の見通しが立ったら、まずは挑戦し、修正・改善を繰り返し、少しずつ完成に近づけていく課題解決サイクルのことを言い、Anticipation（アンティシペイション）／見通し、Action（アクション）／行動、Reflection（リフレクション）／振り返りの循環のことを AAR の循環と言います。

Hanasaki Fes
Hanasaki
いいね！64件

根室市社会教育計画 2025－2034

～社会教育の基本的な考え方～

市民みんなで大切にしたいこと

社会の流れをとらえ、
子どもや若者の
「活気」をつくる

たて、よこ、ななめの
関係を築いて、
「安心」をつくる

根室を知り、
自信をもって
「ふるさと」をつくる

根室市の社会教育に大切な5つの視点

学びを伝え、
地域で活かす

地域全体で
子どもを育む
意識を高める

自分らしさを
大切にする

一人ひとりが
地域の担い手に

みんなで学び合う

社会教育行政の取組の方向性

「当事者意識」を高め、
社会を創る力を育む様々な
学びの場を提供する

幸福や豊かさを感じる
「ウェルビーイングの向上」
を目指す活動を支援する

様々な世代の市民が「つながり」
を感じ、「ふるさと」に誇りを持ち、
地域づくりの担い手の輪を広げる
ための環境を整える

4. 市民みんなで大切にしたいこと

1. 社会の流れをとらえ、子どもや若者の「活気」をつくる

少子高齢化が進む根室市においては、高齢者がいつまでも元気で活躍することに加え、子どもや若者世代も地域活動に参加し、積極的に活動することで新規イベントの創出や後継者育成が進み、地域活性化に大きく寄与することが期待されます。

また、今後の社会情勢がさまざまな要因で変化しても、時代の流れやニーズを捉えて、自ら考え、行動し、対話を重ねることが大切です。

そのために、地域の大人と子どものつながりをより一層深め、安全・安心な「心の居場所」を創出するとともに、次世代を担う市民を育成し、誰もが主役となり、地域に新たな「活気」をつくりましょう。

2. たて、よこ、ななめの関係を築いて、「安心」をつくる

現代社会においては、地域コミュニティの必要性が広く認識されている一方で、人との関わりに煩わしさを感じ、個を好む傾向にあります。

こうした状況の中、地域の中で人とのつながりを持って暮らし、互いを尊重し対話を重ね「誰かの役に立っている」、「地域に必要とされている」という実感が人々の心に安心感をもたらし、自他を大切にする意識を高めることが必要です。

また、多様化が進む現代社会では、外見、人種、障がい等のさまざまな違いや立場を理解し、尊重し合うことが大切です。

子育て支援や地域文化の継承、多様性等、いろいろな人たちと交流を重ね、たて・よこ・ななめの関係性[※2]を深め、地域との「つながり」を感じ、「安心」をつくりましょう。

※2「たて・よこ・ななめの関係性」
「たての関係」は上下関係のある関係(例:上司と部下等)、「よこの関係」は上下関係がなく平等な関係(例:同級生や同僚等)を指します。一方、「ななめの関係」は日常的な接点や直接的な利害関係が少ない人との関係(例:学生の場合、卒業生や地域の大人、社会人では他部署の上司等)を意味します。

3. 根室を知り、自信をもって「ふるさと」をつくる

根室には、国指定の「西月ケ岡遺跡」や「根室半島チャシ跡群」をはじめとする数多くの有形・無形の文化財が存在します。また、湖沼や干潟、高層湿原などの貴重な自然環境、そこに生息する動植物たちも多く存在します。

また、根室市の第九といわれる飯田三郎氏作曲の「北国讃歌」をはじめ、絵画や文学など根室にゆかりのある作家がたくさんいます。

このような歴史や自然、文化に恵まれた「ふるさと根室」の魅力を市民が認識し、語り伝え、大切に想うことは、地域に温かさと豊かさをもたらし、「自分たちの地域は自分たちで守り、考える」という視点や当事者意識を育むことにつながります。

そのため、今ここにある「根室の魅力」を再認識し、これらを活用した愛着と誇りの持てる街「根室」をともにつくりましょう。

5. 根室市の社会教育に大切な5つの視点

A. 学びを伝え、地域で活かす

自ら課題を見つけ考え、身に付けた知識や技能を活用して課題を解決することと、市民みんなで協力しながら地域課題を解決することが大切です。

私たちは、自らの知識経験を深め、人の輪を広げ、そこから多種多様な考えが共有され、協働する力や新たな活動の原動力が生まれ、地域に多くの学びや未来の展望をもたらし、地域コミュニティの形成や活性化につなげることが大切です。

B. 自分らしさを大切にする

人は、それぞれ個々の物語があります。この物語の先にある個人の幸せを追求することと、それぞれ望む幸せの形が違うことを理解し合い、社会全体が幸せになる環境づくりが重要です。

私たちは、他人を思いやりながら、自分の幸せも理解してもらえる双方向の環境を築き、誰もが安心して自分らしさを大切にすることができる、明日を生きる活力につなげることが大切です。

C. 地域全体で子どもを育む意識を高める

大人たちが子どもたちの思いに寄り添い、時には支え、時には見守ることによって、子どもたちの意見や活躍の機会が地域へ広がっていきます。大人から子どもの多世代と地域との関係が密になることで、愛着のある「ふるさと」が生まれます。

私たちは、地域の大人たちと子どもたちが交流する機会を増やすことによって、子どもたちの学びや体験を、より一層充実させ、生きる力を高めることへつなげることが大切です。

D. 一人ひとりが地域の担い手に

根室のすばらしい自然や伝統ある歴史・文化を通して、地域に誇りと愛着を持った担い手を育成していくことが、私たちのふるさとをつくるために必要です。

私たちは、地域について学び、人々と触れ合い様々な関係性を育み、地域のために行動する原動力となり、ふるさとの発展へとつなげることが大切です。

E. みんなで学び合う

多世代交流による市民同士の学び合いは、社会教育において要です。「人の話を聴く」対話の機会を意識的に増やしていくことで、他者への尊厳や思いやりを持つことの意義やそのための手法を身につけることができます。

私たちは、様々な世代が相互に知識と経験を共有することで、地域社会全体の相互理解が深まり、安心できるふるさとづくりにつなげることが大切です。

6. 社会教育行政の取組の方向性

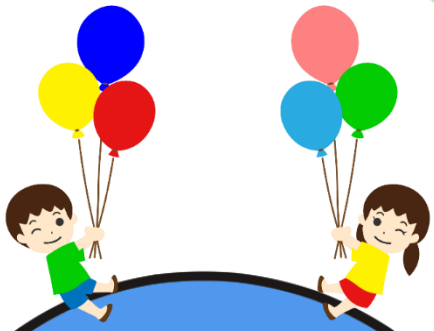
①

「当事者意識」を高め、
社会を創る力を育む
様々な学びの場を
提供する

②

幸福や豊かさを感じる
「ウェルビーイング」の
向上」を目指す活動を
支援する

③



様々な世代の市民が
「つながり」を感じ、
「ふるさと」に誇りを持ち、
地域づくりの担い手の
輪を広げるための
環境を整える

根室市社会教育委員

区　分	氏　名
委員長	原 田　純 子
副委員長	佐 藤　美喜夫
委員	荒 木　英 和
委員	荒 関　恵美子
委員	髙 田　真 弓
委員	辻　由 子
委員	松 田 素 寛
委員	狩 野 弓 子
委員	新 濱　勇
委員	濱 谷 順 子
委員	濱 屋　ルミ子
委員	谷 川　昭 次
委員	岡 田　勝 治
委員	島　郁 代
委員	飯 田　かおり

根室市社会教育計画

2025（令和7）年度～2034（令和16）年度

令和7年3月

発 行　根室市教育委員会

根室市曙町1丁目40番地

根室市総合文化会館内

電話 0153-24-3180